

東京・地域とともに

○地域社会との連携に関する考え方

東京圏を事業基盤とする東京メトログループは、首都東京の都市機能を支えるため、様々な施策を実施しています。今後、少子化・高齢化等が見込まれていますが、これら施策の実施に

より、東京の都市としての魅力と活力を引き出し、沿線地域社会の活性化につなげたいと考えています。

沿線地域の活性化

○保育所の開設による沿線の子育て支援

沿線地域の子育てを応援するため、行政や保育事業者と連携し、待機児童数の多いエリアに保育所を開設しています。現在、高架下等の建物において、保育事業者が認可・認証保育所及び小規模保育室を運営しています。

保育所設置駅数 **6** 駅



ナーサリースクール馬込 (保育所) の外観



ナーサリースクール馬込 (保育所) の内観

○車両基地公開イベント

2016年5月に和光車両基地にて「メトロどきどき体験隊inわこう」、11月に綾瀬車両基地にて「メトロファミリーパーク in AYASE」を開催しました。普段見ることのできない車両基地を見学していただくことで、東京メトロへの理解を深めていただくことを目的としており、ご家族で楽しめるイベントを実施し、

参加人数 **約18,000**名

「メトロどきどき体験隊inわこう」では約3,000名、「メトロファミリーパーク in AYASE」では約15,000名のお客様に楽しんでいただきました。



「メトロファミリーパーク in AYASE 2016」の様子

○東京マラソンへの参画

東京メトロは、アジア最大級のマラソン大会であり、スポーツと文化が融合した東京の魅力を実感できる「東京マラソン」を2007年の第1回大会から特別協賛社として支え、東京メトロの事業基盤である東京の発展に貢献しています。2017年の大会では、「東京マラソンEXPO 2017」においてブースを出展しました。また、大会当日はコース沿いの各駅に多くの社員を配置して

2016年度ボランティア参加人数 **約120**名

ご案内するとともに、東京メトログループ社員とその家族約120名が給水ボランティアに参加し、大会を支えました。



東京マラソン2017 給水ボランティアの様子
©東京マラソン財団

次世代育成支援

○キッズニア東京への出展

2015年4月から子ども向け職業体験型テーマパーク「キッズニア東京」において「地下鉄」パビリオンを出展しています。普段見ることができない車両や軌道のメンテナンス、また電車の運転士の仕事を子ども達が体験することにより、地下鉄への興味を

持っていただくとともに、仕事の意義ややりがいに関する理解を深めていただける内容となっています。



「地下鉄」パビリオンの様子

○鉄道ワークショップの開催

2013年から東京大学生産技術研究所と連携して、中高生を対象に「鉄道ワークショップ」を開催しています。2016年度は「車輪のしくみ」について、東京メトロの車両基地の見学や東京大学生産技術研究所駒場リサーチキャンパスでNゲージや車輪

2016年度参加者数 **56名**

模型を使用した講義と実験を行い、鉄道を通じて科学に関する理解を深めていただきました。

累計参加者数 **225名**



中野車両基地見学の様子

○JFAこころのプロジェクト「夢の教室」への協賛

公益財団法人日本サッカー協会が実施している「夢の教室*」に協賛しました。2016年度は市川市、江東区及び台東区の小学校にて、プロ野球選手の五十嵐亮太さんをはじめとするスポーツ関係者が授業を行いました。

*夢の教室：先生として派遣されたスポーツ関係者が「夢を持つことやそれに向かって努力することの大切さ」を伝えていくプログラムです。

開催数 **17校 47クラス**



「夢の教室」での授業の様子

○職場見学の受入れ・訪問

工場・検車区では実際の業務の見学、駅では構内放送の体験、乗務管区では事務室の見学などの内容で、職場見学を受け入れるとともに、それぞれの職場の近隣小学校への訪問を実施しています。



職場見学の受入れの様子

○インターンシップの実施

大学生・大学院生を対象に少人数のインターンシップを行っています。2016年度は技術系及び事務系の学生を対象に、施設見学やグループワーク、社員との対話を通して首都東京の都市

機能を支える仕事の責任と重要性を実感していただきました。

参加人数 **456名**



インターンシップの様子

○地下鉄博物館

地下鉄博物館は1986年7月に開館した日本で唯一の地下鉄の博物館です。運営は公益財団法人メトロ文化財団が行っており、地下鉄の歴史や仕組みなどを中心に、「みて、ふれて、動かして」学習するというコンセプトのもと、小中学生などの若い世代に理解していただけるよう様々な展示を行っています。日本初の

地下鉄車両1001号車の展示や運転シミュレーターの体験のほか、特別展やイベントも実施しています。

2016年度来館者数 **約171,000名**



地下鉄博物館

地域貢献活動

○被災地復興支援

東日本大震災及び原発事故により大きな被害を受けた福島県の復旧・復興を支援するため、銀座駅コンコースで2012年から「福島産直市」を継続開催しています。また2017年2月に、「平成28年熊本地震」により被害を受けた熊本県の復興支援のため「熊本産直市」を開催し、特産品の販売や観光PRなどを行いました。



福島産直市の様子



熊本産直市の様子
©2010 熊本県くまモン
協力:銀座熊本館

○非常用食品の寄贈

各職場で備蓄している非常用食品更新の際に、賞味期限が残っている食品を廃棄せずに寄贈しています。2016年は、アルファ米、クラッカー・パン等の非常用食品及び非常用飲料水を各職場から回収し、児童養護・母子支援・障害者支援等の福祉

アルファ米 **19,740食** クラッカー・パン等 **15,700缶** 非常用飲料水(500ml) **56,600本**

施設や生活困窮者などに食品の提供を行っているセカンドハーベスト・ジャパンに寄贈しました。



非常用食品寄贈の様子

○音楽イベントの開催

東京メトロでは、日頃のご利用に感謝を込めて、定期的に駅コンコース等において音楽ステージを開催しています。

またメトロ文化財団では、2016年度は福祉活動に寄与するための「音楽の贈りものコンサート」を福祉施設・病院等で、気軽に楽しくクラシック音楽に触れていただくための「メトロポリス・クラシックコンサート」をサントリーホールで、そして音楽文化の

2016年度開催数 **17回** 累計開催数 **169回**

普及を図る文化活動の一環としての「メトロコンサート」を地下鉄博物館及び駅構内にて開催しました。



「メトロポリス・クラシックコンサート」の様子

国際社会との連携

○事業者との交流・視察受入れ

各国の地下鉄事業者などからの視察者の受入れや、国際協力機構(JICA)研修事業への協力を行い、積極的に国際社会への貢献に取り組んでいます。

また、国際会議・展示会の場を通じて、海外の鉄道関係者との交流や都市鉄道システムにおける東京メトロの先進性のアピールを図っています。その一環として、2016年は、5月にマレーシア・

2016年度実績 **64**か国・地域 **625**名

クアラルンプールで開催された「UITP(国際公共交通連合)アジア・太平洋部門会議」、9月にドイツ・ベルリンで開催された世界最大の鉄道見本市「イノトランス」等に参加しました。

さらには、海外鉄道建設プロジェクト、国際協力機関への社員の派遣、日本コンサルタンツ株式会社への参画などを通じて、海外における地下鉄建設や運営・保守への技術協力を行っています。

○ハノイ市都市鉄道整備事業への支援

2013年からJICAが行う「ベトナム国ハノイ市都市鉄道規制機関強化及び運営組織設立支援プロジェクト」を日本コンサルタンツ株式会社と共同で受注し、ハノイ市の都市鉄道の運営及び維持・管理を行うハノイ・メトロ・カンパニー(HMC)の設立を支援してきました。

また、ハノイ市及びHMCと東京メトロとの間で締結した友好と協力に関する覚書に基づく支援を通じ、今後のハノイ市都市鉄道

の発展に寄与していきます。

なお、2017年4月、東京メトログループとして初の現地法人となるベトナム東京メトロの営業を開始しました。



現地での関係者会議の様子